

# 第3回幼・保・小合同研修会



とき 平成28年7月29日(金) 午後3時～午後4時40分  
ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

講演・演習 講師 「特別に配慮を要する子どもの支援の視点と実際」  
東京都北区立柳田小学校 主幹教諭 本谷 あゆみ 先生

講師は東京都で巡回指導の拠点校で勤務していらっしゃることから、豊富な事例に基づいたそして子どもたちへの愛情あふれるお話をしてくださいました。さらに、工夫あふれる教材を資料とともに実際に使っている物を持参して紹介してくださいましたので参加者からは「大変参考になる」と好評だった。

## 教材の一例

### 気持ちのレベル

レベル	感情表現	顔の表情
1	うれしいなあ。	笑顔
2	いい気持ち。	穏やかな笑顔
3	いいね、いいね。	優しい笑顔
4	なんだか、いいね。	少し不安な笑顔
5	ふつっの感じ。	曇った顔
6	何だか、いやな感じ。	怒り始めの顔
7	がまん、がまん。	怒り顔
8	ムムム。がまんできない。	怒り顔
9	げんかした。ひどい気持ち。	怒り顔
10	ウワー！ やつあたりしてやる。	激怒顔

おちついた いい気持ち ← | → イライラしている いやな気持ち

#### イライラをしずめる方法

- じ 緊張(あつめた心)をゆるめる。  
呼吸をゆるめる、目をゆるめる、肩をゆるめる、手をゆるめる。
- かん 緊張(あつめた心)をゆるめる。  
呼吸をゆるめる、目をゆるめる、肩をゆるめる、手をゆるめる。
- お 緊張(あつめた心)をゆるめる。  
呼吸をゆるめる、目をゆるめる、肩をゆるめる、手をゆるめる。
- け 緊張(あつめた心)をゆるめる。  
呼吸をゆるめる、目をゆるめる、肩をゆるめる、手をゆるめる。

「今どんな気持ち？」と自分の気持ちを示すことができる

## ぼくのしたことは、どのレベルかな？

<p>わざとじゃないけど、「ごめんなさい。」とあやまろう。</p>	<p>「ごめんなさい。ふざけてわるい」ことをしてしまいました。もうしません。」とやくそくしよう。</p>	<p>「ごめんなさい。ぼくはどうしたらゆるしてもらえるの？」あやまるだけじゃダメ。</p>	<p>「ごめんなさい」をしないと、ゆるされないと、わるいことだよ。</p>
<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>4</p>

← あやまったら、ゆるしてもらえるよ。

→ あやまるだけでは、ゆるしてもらえない。

「悪いこと」しちゃったんだって 僕のしたことはどんなことなのかな。  
「君のしたことはこんなことなんだよ」一緒に考えてみよう

## 禁句を避ける ことばかけの工夫

- なぜ、その行動が起きたのか、起きるのか「原因」を考えて、推察してから対応する。  
「何やってんの！」「いい加減にしなさい。」  
⇒「今～だから、～してるの？」  
「もしかして～だから～していいと思ってるの？」
- 「褒める」を“おどし”にしない。  
「～できないと～あげないよ。」  
「～終わらないと～できないよ。」  
⇒「～したら、次は～できるよ。」
- 「否定的なことばかけ」を極力減らす。  
×「だめ！」⇒△「残念！」

子どもへの言葉かけはポジティブな目線で

できたかできないかではなく、伸びたかどうかを見る

紹介していただいた教材の一部は、CDで貸し出すことができます。  
ご希望の方は、総合教育支援センターにお問い合わせください。

## 講演の概要

- 東京都では「障害者差別解消法」の施行に伴い、在籍校で指導が受けられるよう平成28年度から「特別支援教室」が導入された。「子どもが動く」通級のシステムから「教員が動く」巡回指導のシステムに変更した。拠点となる学校からチームでメンバーを変えながら巡回をしている。
- 抱えている状態(困難さ)は必要な指導や手立てで変わっていくという考え方で取り組み、担任にも助言を行う。情緒・自閉・ADHD・LDといった個々の子どもの状態に合わせたカリキュラムで個別指導を行い、「うまくいった経験を重ね、経験値アップ」という思いで努力している。
- 読みの困難のある子には教科書を拡大して用いたり、分かち書きやふり仮名をつけたりする、さらに拡大コピーをするなどその子に合ったテキストにする工夫をしている。また、指先の動きがスムーズでない子のためにこま遊びをしたり指先の動きを補助できるコンパスを使ったりするなど困り感に応じた教材の工夫をしている。

気持ちをうまくコントロールできないような子の場合、自分の気持ちや周りの期待、人との距離感など、目に見えないものを視覚化した「行動のものさし」「気持ちのレベル表」「君のしたことはどのレベル？」などの教材を使って、相手の気持ちに気づいたり自分の気持ちを確認したりできるように話しあいながら指導をしている。また、行動の振り返りをし、こんなときはどうするか対処法のキーワードを一緒に考えることもする。自己理解を深めるためにチェックシートを使ったり、ルールブックを使いそれに新しいルールを付け足したりすることもしている。
- 低学年段階では、その子の特性は何か見通しの持ちにくさに対する早目の手立てや支援が必要である。好きなことをきっかけにこだわりをポジティブな児童理解につなぐ「その子のものさし」を探してほしい。

高学年段階での支援は何でも聞ける相手として、振り返りと見通しで自己理解を深めることや、「自分のものさし」の微調整をする手助けを行う。自分は、何でも話せるための道具として「オフレコ君」と名づけた小さな人形を出して子どもとやりとりしている。
- 巡回指導をしていると、各校で教材の工夫や特性に気づいた環境整備の工夫があり、担任の個別配慮「特別支援マインド」を感じる。また、巡回指導の助言で児童の持つ困難さを理解して活動のバランスを工夫したり、禁句を避けた言葉かけをしたりと、担任も気づくことがあると思う。

子ども達たちの目の機能がダウンし、学びにくさにつながっていることが指摘されている。目の体操(ビジョントレーニング)で集中力が育つ、行動が落ちつくなどの成果が報告されていて、自校でも家・学校・保健室との連携指導で効果が上がっている。幼保の小さな子どもにも効果的であるので参加者にもぜひ勧めたい。
- トラブルが起きた時、紙と鉛筆で本人が言ったことやったことを絵に残すというのは自分の行動や気持ちを整理できる方法で、逆に予定やこれから起こることを書き出して目で見えるようにすると、見通しを持ち安心して行動できるようである。また、相手の状況や気持ちを理解することが難しい場合は子どもの困難に合わせた対処が大切で、「特別支援マインド」では相手の思いを通訳して伝え、わかってよかったねと称賛してやる。「カウンセリングマインド」では本人の話をよく聴き不明瞭な部分を補い状況や相手の思いを見えるようにして確認してやる方法がある。

イライラをしずめる方法としては「㊦(事実を伝える)㊧(感じたことを伝える)㊨(お願いしたいことを伝える)㊩(その結果どうなるか伝える)」がある。時間をおき、つたない言葉も聞き取り納得できるようにしていく。「こんなこともあるよね」で明るく対応してあげたい。
- 最後に、子どもの支援とは、子どものまわりのいろいろな人たちをつなぐことだと思う。「ネットワーク」「チームワーク」「フットワーク」を大事に皆で力を合わせ、子どもたちが笑顔になるような連携をしていきたい。